

みなとのたより

らしく



湊小学校通信

H. 29. 5. 24

NO.2

文責：川村・比内

今年も見せた「湊魂」！本気の姿！

先日20日（土）に「平成29年度湊小大運動会」を開催することができました。たくさんの方の保護者、地域の皆様に見守られ、子どもたちはこれまでの練習の成果を存分に発揮しました。



体を反って、全力で声を出すのが湊小の応援合戦

今年度のテーマは「燃やせ湊魂！！力をあわせ限界に挑戦！！」でした。これは最高学年になった6年生が考えたものです。この中では「限界」ということばがキーワードになりました。練習が開始された当初はなかなか自分の殻を破ることができずに指導されることが多かった子どもたちが次第に全力で声を出し、腕を振って行進できるようになりました。運動会本番では、強風と今季最高の気温にも負けず、最後まで自分たちが指導されたことをしっかりやり遂げることができました。「運動会の練習が辛い」と思っていた子どもたちがその気持ち乗り越え、立派な運動会をつくりあげてくれたことを嬉しく思いました。子ども一人一人が自分の限界に挑戦し、やり遂げたという成就感をもつことができた運動会だったと思います。当日お出でいただき、お褒めの

言葉をくださった来賓の皆様、朝早くの奉仕作業から最後の片付けまで御協力いただいた保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に、この学校行事を行うにあたり、当日の路上駐車や校外放送により学校近隣の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、今後とも子どもたちの健やかな成長のため、御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

※ 運動会の様子は「湊小ホームページのブログ」でも公開していますので御覧ください。

待ちの姿勢で子育てを

今年度に入り、地域の方々と子どもたちの様子についてお話する機会が多くありました。その中には、「あいさつしてくれる子が増えたよ。」という嬉しい情報の他に「人の敷地の中でいたずらをしている」「なかなかあいさつをしてくれない」などのことも聞かれました。また、児童館では「乱暴なことばを使っている」ということも耳に入ってきました。子どもたちは学校内では大変がんばっています。しかし、注意されると「泣く」「黙る」ことが多いように思います。これは、自分の気持ちを自分の言葉で表現できないことが原因ではないかと考えています。

そのことを改善するために

- 子どもが話すまでじっとりと待ってあげる。
- なぜそのような行動をとったのかを文章で話すことを教える。
- 普段の生活の中でも、できるだけ会話をするように保護者から話しかける。（あいさつも含めて）

学校でも、この点については粘り強く指導していきますので、御家庭でも共通した指導をお願いします。子どもたちのよりよい成長を願って、粘り強く指導していきましょう。



特色ある競技もたくさん展開されました。